

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800240		
法人名	親愛ケアサービス 有限会社		
事業所名	すがの 親愛ホーム		
所在地	千葉県市川市菅野5-2-12		
自己評価作成日	令和元年11月18日	評価結果市町村受理日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和1年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が今までの慣れ親しんだ環境を継続していただくために、落ち着いた雰囲気と、【花】【絵画】等を設置し、癒しのある空間の提供に力を入れています。また、本年も年4回の認知症カフェも継続し地域住民の方々と交流を設けています。一方、近隣保育園との交流及び子供110番の設置、自治会継続で各種イベント等にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR本八幡駅から車で5～8分の交通や生活に便利な住宅街に立地した施設です。3階建ての1階は小規模多機能型施設で、2階、3階をグループホームが占め、防災訓練、運営推進会議、各種行事、ボランティア受入れ等、共同で効率的に運営しています。特に3か月毎の認知症カフェ開催(無料)、中学生の職場体験受入れ、近隣保育園児との交流、子供110番の引受等地域交流と貢献に努めています。
2. 家庭的な雰囲気の中、職員は利用者本位のサービスに努めており、今年は家族の要望で1名看取っています。内科医による月2回の訪問診療(24時間オンコール対応)、歯科医の必要時訪問、併設の小規模多機能型施設の非常勤看護師1名の体制で、医療面で利用者・家族に安心感をもたらしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としては、自治会加入継続、地域行事参加等を行っている。また、昨年から認知症カフェを開催し地域の方々の介護相談等も行う。理念は毎朝礼での読み上げを行い、職員全体に浸透しつつあると思われる。	理念「利用者満足度とご家族の思いに寄り添い、共に歩み続けます」と、地域密着を織り込んだ3か条の基本方針を、職員は毎日の朝礼で読み上げ、日頃のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のグループホーム、保育園、自治会、サポートセンターとの交流を行っている。上記同様、一昨年より【認知症カフェ】を開始し、3カ月に1度継続開催していく。また、中学生の職業体験の受入を実施。	管理者は地域交流と貢献に力を入れています。自治会に加入し、主催行事(夏祭り、クリスマス等)に参加する他、認知症カフェ(無料)の3か月ごとの開催、近隣保育園との交流、中学生の職業体験受入れ、子供110番の引き受け等を行っています。又民生委員2名が運営推進会議に出席しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般の方を対象としたイベント【認知症カフェ】を2年前より開始。同イベント内容として、有資格者による介護相談、入居・施設相談、また習字教室など楽しい場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見については、厳粛に受け止め、代表取締役及び介護現場に報告して、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、年6回、系列小規模多機能施設と合同で、市担当、民生委員2名、家族、職員で開催しています。議題に、状況報告、イベント・地域活動報告、ヒヤリハット・事故報告、実地指導結果報告等を取り上げて意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは、書類提出時の交流以外は特になし。運営推進会議での意見を参考にしている。	市担当には必要書類提出時に報告・説明する他、運営推進会議に出席してくれるので、情報や意見を貰い運営に役立てています。行政関係機関から介助困難者の受入れ要請があれば、社内規定の受け入れ枠と対象者状況、職員状況を考えて対応しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年より会社としての身体拘束廃止指針を作成し、職員全体で共有している。同時に高齢者虐待・身体拘束委員会を設置、外部研修にも職員及び管理者が参加して正しい知識を得るようにしている。	昨年4月から、身体拘束適正化委員会を発足させ、年4回開催し同時に職員研修会を実施しています。利用者の離脱防止の観点から、家族の了解を得て昼間も施錠していますが、拘束感を抱かせない様、声かけや他の場所に誘導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会の下、正しい知識を職員全体が共有できるようにしている。(虐待アンケート実施) 時折、管理者が夜間帯ケアのラウンドを行い、虐待の実情がないかを確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、まだ、具体的に職員には周知できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者とケアマネージャー、広報職員等複数で行い、あらゆる視点からの不安・疑問点に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に、意見・要望がある場合は、管理者が積極的に意見収集に面会時の面談を行っている。ただ、外部者に表す機会には設けられていない。	利用者については、毎月2名の介護相談員が訪れ話を聞いてくれます。家族からは訪問時、電話連絡時、メール交換(約10名位)時、運営推進会議時等で意見・要望を聴く他に、外部評価時に実施する家族アンケートでの意見・感想も尊重し、運営に反映させています。管理者の声かけで、数人の利用者に笑顔が見られました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に職員面談等も実施し、個別に、意見を聞く機会には設けている。また、全体会議として、利用者の情報共有だけではなく、様々な意見の場としている。	管理者は、職員から就業時や、毎月の職員会議時、随時の個人面談で、意見要望(物品購入、人員配置等)を聴き、運営に反映する様に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者としては、職員情報を集めるようには努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅社員を中心に外部研修に参加させ、新入職員については、入念なオリエンテーションを行い、その後、現場で指導職員を決め、管理者自身がOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム及びサポートセンターのイベントに積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の段階で、管理者、広報、ケアマネジャー、介護リーダーが訪問して、様々な不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。必要とあらば、自施設グループの関係者も積極的に同行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム職員は、利用者の生活スタイルを把握して、散歩・趣味等の今までの生活リズムを継続するように努力している。また、入念にミーティングを繰り返したのち、利用者の嗜好・性格に合わせて居室移動も試みている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	接遇を含めて、家族との交流も行い、家族の考えも含めた、より深い介護が出来るように努めている。家族面会の際は、可能な限り管理者も立ち合い、大半の家族とメールでの情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人等の面会も、積極的に受け入れている。	面会時間は午前9時～午後5時としていますが、状況に応じて柔軟に対応しています。職員は面会者に笑顔で挨拶し、利用者の日頃の様子を伝えるなどして、気軽に面会できる雰囲気を作っています。居室には馴染みの家具などを持ち込むよう勧め、これまでの生活感が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を深く認識して、生活共同室での席の並び方も考慮して行っている。また、入念にミーティングを繰り返したのち、利用者の嗜好・性格に合わせて居室移動も試みている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の他施設への案内・紹介は管理者・ケアマネジャーが多岐に渡り積極的に行っている。また、逝去についても、その後の案内・関係業者紹介等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活経過や思い出、関心事に興味を持ち、職員回覧として情報共有を行っている。また、カンファレンスも随時実施し、本年から市役所介護相談員派遣を受け入れ、利用者のより正直な本音を聞くことにしている。	利用者の生活歴やこだわりを把握し、落ち着かない時にはその原因を探ります。表情やしぐさから利用者の思いを把握して支援につなげています。気持ちに沿った支援ができた時には職員間で申し送りをし、キーワードを共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約・入居時に利用者だけではなく、家族からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態、嗜好を把握・職員間共有し、記録として残している。また、バイタルについてはグラフ記入方式を継続。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望に添うように、職員間でカンファレンスを行い、ケアプランとしている。	入居前には自宅を訪問し、本人・家族の意向や心身の状況等を聞き取り、アセスメント用紙に記録します。又医師や関連サービス事業所からの情報をもとに介護計画を立てています。半年毎にモニタリングをし、変化時と共に計画の見直しを行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を事細かに記録することを日々徹底し、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者嗜好に合わせて、散歩及び買い物同行を行っている。また、管理者・広報等職種にとらわれない散歩、外食レクリエーションの同行等を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所を積極的に実施、子供110番も行って、地域協力を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院には、職員が送迎・付き添いを可能な限り行い、往診診療及び住診歯科診療も行っている。	入居時に本人・家族の意向に沿った医療機関を選択しています。現在はほぼ全員が月2回の専門の訪問診療医により健康を管理しています。24時間オンコールで連携の取れる体制です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	別階の小規模多機能型施設の非常勤職員として看護師1名を配置、また、夜勤専属介護職員として2名の看護師が在籍している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーが中心となり、病院等との連携・情報交換を行っている。また、広報職員は病院関係の集会等にも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、家族との間で、早い段階から行っている。	重度化した場合には医師を交えて家族と今後の事を話し合います。医師の指示に従って家族の納得のいくかたちで、終末期を迎えられるよう体制を整えています。	近年は1件の看取りを行い、職員は落着いて対応できています。今後は重度化した場合のホームの指針を明確にし、職員の研修やマニュアルを整備する等、組織的な仕組みづくりが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に急変対応等の研修には参加しているものの、職歴の浅い職員には浸透しておらず、夜勤専従看護師を中心に施設内全体研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時に役割分担と防災訓練は行っているものの、地域との協力体制は今後の課題。	消防訓練は、11月消防署立ち会い訓練を実施し、3月に自主訓練を予定しています。スプリンクラー、消火器、自動通報装置等、一連の防火装置・機器は完備し、緊急連絡網、対応表は掲示されています。備蓄は品については、施設としてオムツ・タオル等を備蓄していますが、食料・水、防災用品(防災頭巾・ヘルメット、ガスコンロ等の熱源等)が備蓄されていません。	最近各種大規模災害が頻発していることを考え、関係者で話し合い、ハザードマップの見直し、年1回の災害訓練(水害が発生したことのある地域なら、全員3階に垂直避難する等)の年1回実施、食料・水5日分、防災用品＝ヘルメット・防災頭巾、ガスコンロ、電源等を早急に備蓄する事が望まれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への話し方、態度については、尊厳を守る観点から、新入職員オリエンテーション時から指導している。	個人ファイルは鍵のかかる書庫で管理し、現金や私物は事務所で管理しています。利用者の人格を尊重した接遇については研修や日々の指導で徹底しています。又入浴などはできるだけ同性介助に努め、羞恥心にも配慮しています。	接遇や介護技術の向上のために研修を行っています。しかし個々の経験や能力に差がある事は否めません。今後は職員の意識・技術の向上に向けての更なる取り組みが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線からの声掛け・傾聴により、利用者の気持ちを理解する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のリズムを把握し、個々の希望を可能な限り優先させている。上記記載の、介護相談員からも利用者の希望を聞き取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・整容は安全を考えて共に実施。理容は外部業者を施設に呼び、気軽にお願いできる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクリエーションは各利用者の誕生日に特別食を用意し、以前よりも増加。食事準備、後片付け及び食器洗浄については、利用者の安全の範囲で、ほぼ毎日、行ってもらっている。	利用者は包丁で食材を切ったり、皮をむいています。また盛り付けや配下膳など職員と共にできる事を行っています。誕生日や行事の日には特別食が提供されます。遠足におにぎりを作って持って行ったり、少人数でファミリーレストランに行き、好みの物を注文するのも楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、記録用紙だけではなく、利用者個別一覧表にして管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然ながら、口腔ケアについては実施している。義歯を装着している際の、注意も十分に情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、自立排泄を心掛け、支援している。	排泄については声かけや着脱の介助等、少しの介助があればほとんどの利用者は自立しています。排泄チェック表をもとに個々のリズムを把握し、声かけや誘導・介助が適切に行われている事が分かります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康記録を確認し、薬剤に頼らない便秘予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員の関係で、利用者の希望に完全に沿うことはできないものの、湯ぶねに浸かる時間等は、健康を考えた上で、利用者の希望に応じるようにしている。可能な限り、落ち着いた入浴を行う為、1日の入浴人数を1ユニット当たり2～3名に少なくしている。	週に2回のペースで主に午前中に入浴しており、希望や必要があれば個別に柔軟に対応しています。入浴を拒否する人はおらず、入浴剤を入れた湯船にゆっくりと浸かり、リラックスした時間を過ごしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かすレクリエーション等を行い、昼夜逆転しないように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分の意思で内服できるように、丁寧な声掛けを実施。薬剤の効能は、昨年、精神科医師を招き薬剤の効用と副作用の勉強会を開催し職員全体の知識を高め、その後のカンファレンスで、誤薬のないように声出し複数確認作業を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で得意なことを把握して、将棋、囲碁、習字、編み物等のレクリエーションを実施。食器洗い等お手伝いもお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援を行っている。車両を使う場合は、介護職員だけではなく、送迎要員、管理者、広報、ケアマネージャーも積極的に協力している。	天気の良い日はホームの周りを散歩しています。利用者の希望でコンビニや薬局に買い物に行く事もあります。年間を通して花見や遠足に出かけたり、近くの小学校のイベントに参加するなど外出を支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	上記同様、日常的に外出支援を行い、利用者持参金を厳密に管理し、家族同意のもと、嗜好品及び消耗品の買い物も同行で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望があれば、電話使用を認めている。手紙についても同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りについては、常に明るく、絵画を掲示、明るい雰囲気を作っている。また、建物内も、利用者作成の掲示物及び絵画、ベランダにも多数の生花を設置し、癒しの空間を提供するようにしている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、適度の広さもあり、利用者が居心地よく、過ごせる様に配慮されています。テレビ、ソファ、観葉植物、クリスマスツリーが置かれ、壁には習字作品、行事写真、季節の飾り、絵画等が貼られ、季節感、生活感を感じます。利用者は、うたた寝、歓談、テレビ鑑賞等の他、レクリエーション(歌、各種体操、カルタ、トランプ、風船バレー等)を楽しんで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に応じて机の位置を変えている。性格、テレビ等の嗜好、及び介護の能率も考慮している。また、必要の際は利用者の嗜好・性格に合わせて居室移動も試みている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ空間を、可能な限り再現するために、品物や写真等、記念の品々を持ち込めるようにしている。	居室は、エアコン、ベッド、カーテンが備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様になっています。衣替えや整理整頓は、利用者、家族、職員(居室担当)が協力して行っています。利用者の元気な頃の美しい布貼り絵画作品が、自分の居室、通路の壁に飾られていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの大きさ、ベランダ設置、エレベーター・会談の自動ロック等安全面を考えた設計となっている。		